

社会資本総合整備計画（市街地整備） 事後評価書

平成28年 3月30日

計画の名称	1 北斗市新幹線新駅周辺地区		
計画の期間	平成23年度 ～ 平成27年度（5年間）	交付対象	北海道北斗市
計画の目標			

【大目標】

北海道新幹線新駅開業に併せて行う快適で賑わいのある新たな都市拠点の創出と地域の活性化

【目標1】

新たに都市基盤施設を整備し、活力のある商業地を形成する。

【目標2】

周辺を含む地域住民及び商業従業者の交通利便性を高める。

【目標3】

地域住民や商業従事者へ降雨に対して安全で汚水処理の行き届いた衛生的な都市基盤を提供する。

【目標4】

新幹線利用者や地域住民が、地域の自然や緑に触れ、憩うことができる空間を提供する。

【目標5】

「きじひき高原」や「樹齢300年のしだれ桜」などの新駅周辺の潜在的な観光資源を活用して観光振興をし、賑わいのあるまちづくりを行う。

計画の成果目標（定量的指標）

【目標1に対する指標：民間商業・業務面積の増加】

にぎわいのある商業地区形成及び地域住民の利便性向上のため、商業・業務地区の増加面積を評価する。

【目標2に対する指標：地域住民の交通利便性への満足度増】

新駅周辺の交通利便性を高め、地域住民の満足度増加を評価する。

【目標3に対する指標：安全で衛生的な都市基盤の創出】

降雨に対し安全で汚水処理が行き届いた衛生的な度合いを、下水道普及率により評価する。

【目標4に対する指標：自然や緑に触れた憩いの創出】

自然や緑に触れ憩う場の提供成果を、緑化施設の整備面積により評価する。

【目標5に対する指標：きじひき高原関連施設の利用者及び桜回廊イベント期間の鑑賞客数の増】

きじひき高原内の施設整備の効果を、きじひき高原内の施設の利用者数で評価する。

桜回廊整備事業の効果を、イベント期間中の鑑賞客数で評価する。

定量的指標の定義及び算定式

【民間商業・業務面積の増加】 区域内の商業・業務施設の延べ面積 [m²]

【地域住民の交通利便性への満足度増】 住民アンケートによる満足度 [%]

(交通利便性満足度) = (満足+やや満足) / (回答数)

【安全で衛生的な都市基盤の創出】 土地区画整理区域内の下水道普及率 [%]

(土地区画内の下水道普及率) = (下水道普及面積) / (土地区画整理区域面積) (%)

【自然に触れた憩いの創出】 土地区画整理区域に占める公園と緑化調整池の面積割合 [%]

(公園と緑化調整池の面積割合) = (公園 + 緑化調整池面積) / (土地区画整理区域面積) (%)

【きじひき高原関連施設の利用者増】 匠の森ときじひき高原キャンプ場の年間利用者 [人]

【桜の回廊鑑賞客数】 桜の回廊のイベント期間の鑑賞客数 [人]

定量的指標の現況値及び目標値

当初現況値 中間目標値 最終目標値

(当初) (H27末)

1260 6000

[H21年度当初] [H26年度末]

16 26

[H21年度当初] [H26年度末]

- 100

[H22年度当初] [H27年度末]

- 8

[H22年度当初] [H27年度末]

8482人 12800人

[H22年度末] [H27年度末]

11000人 16500人

[H23年度] [H27年度]

備考

全体事業費

合計
(A+B+C)

5,019百万円

A

2,905百万円

B

1,961百万円

C

153百万円

効果促進事業費の割合
C / (A+B+C)

12.8%

事後評価（中間評価）

○事後評価（中間評価）の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

北斗市社会資本整備総合交付金事業評価庁内検討委員会による審議

北斗市社会資本整備計画総合交付金評価委員会による審議

事後評価の実施時期

平成27年10月～平成28年2月

公表の方法

市のホームページにて事後評価様式を掲載

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業																	
A1 基幹事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	道路種別	省略 工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考
											H23	H24	H25	H26	H27		
A1-1	都市再生	北海道	北斗市	直接	北斗市	都市再生整備		北斗市新幹線新駅周辺地区	事業区域 A=13.5ha	北斗市						2,286.0	
								(上記うち基幹事業)								(1,797.4)	
								道路	区画半断面道路、取付道路	北斗市							
								地域生活基盤整備	調整池	北斗市							
								高質空間形成施設	歩行者支援施設等 (歩道照明、シェルター)	北斗市							
								高次都市施設	南駅附帯施設 (情報発信スペース・観光案内所)	北斗市							
								地域生活基盤整備	南北連絡通路	北斗市							
								(上記うち提案事業)								(488.6)	
								地域創造支援事業	上水道	北斗市							
								地域創造支援事業	整地	北斗市							
								地域創造支援事業	南駅附帯施設(地場産品展示・販売スペース)	北斗市							
A1-2	街路	北海道	北斗市	直接	北斗市	区画	改築	北斗市新幹線新駅周辺地区	区画整理 A=13.5ha	北斗市						548.0	
A1-3	街路	北海道	北斗市	直接	北斗市	S街路	改築	新駅環状通	道路改築 L=0.5km	北斗市						71.0	
											小計 (道路事業)			2,905.0			
B 関連社会資本整備事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
										H23	H24	H25	H26	H27			
B1-1	街路	北海道	北斗市	直接	北斗市	—	北斗市新幹線新駅周辺地区	区画整理 A=13.5ha	北斗市							253	
B1-2	街路	北海道	北斗市	直接	北斗市	—	新駅環状通	道路改築 L=0.5km	北斗市							140	
B1-3	下水道	北海道	北斗市	直接	北斗市	—	雨水汚水整備	管路整備 L=4.0km	北斗市							321	
B1-4	道路	北海道	北斗市	直接	北斗市	—	新幹線南口路外駐車場	一般車(580台)、バス(20台)	北斗市							1,247	
											合計			1,961			
番号	一体的に実施することにより期待される効果													備考			
B1-1～2	基幹事業の道路と一体的に整備することにより、新幹線新駅がもたらす発生集中交通への対処や、新幹線利用者及び商業従事者、地域住民に供与する交通利便性の向上が期待できる。																
B1-3	基幹事業の調整池と一体的に整備することにより、降雨に対し安全で、汚水の処理が行き届いた衛生的な環境の提供が可能となるなど、都市基盤の快適性向上が期待できる。																
B1-4	基幹事業の道路と一体的に整備することにより、不正路上駐車抑制による市街地内での円滑な移動や賑わいのある商業活動、災害救助や緊急医療などの円滑な実施が可能となるなど、都市基盤における賑わいや安全性の向上が期待できる。																
C 効果促進事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
										H23	H24	H25	H26	H27			
C1-1	調査	北海道	北斗市	直接	北斗市	調査	施設利用状況・事業効果検証調査	施設利用者数等調査・事業効果検証	北斗市							4	
C1-2	公園	北海道	北斗市	直接	北斗市	公園	区画整理区域緑化公園整備	公園 A=4066m ²	北斗市							81	
C2-1	観光振興	北海道	北斗市	直接	北斗市	観光地整備	桜回廊整備事業	桜植樹・照明器具	北斗市							23	
C2-2	観光振興	北海道	北斗市	直接	北斗市	観光情報提供	観光情報提供装置整備	情報発信機器・室内観光情報提供板・路側観光情報提供板・ライブカメラ	北斗市							44	
C2-3	観光振興	北海道	北斗市	直接	北斗市	観光情報提供	「北斗市観光情報路側等表示検討委員会」開催	学識経験者等による委員会開催	北斗市							1	
											合計			153			
番号	一体的に実施することにより期待される効果													備考			
C1-1	基幹事業、関連事業、効果促進事業実施による事業効果を検証する。																
C1-2	南駅附帯施設と一体的に整備することにより、新幹線利用者や地域住民に対して、地域の自然に触れる環境を供与し、憩いを創出することが期待できる。																
C2-1	高次都市施設(情報発信スペース・観光案内所)の整備及びその施設内における観光情報の発信と、市内の桜景勝地の整備・観光ルート化により、相乗的に観光客の集客効果が高まり、高次都市施設及び駅周辺の賑わいの創出や地域の活性化促進が期待できる。																
C2-2	高次都市施設(情報発信スペース)内等に、観光情報提供装置を整備し、観光情報を提供することで、観光客の集客効果が高まり、高次都市施設及び駅周辺の賑わいの創出や地域の活性化促進が期待できる。																
C2-3	高次都市施設(情報発信スペース)内や交差点・路側等における観光情報提供について、観光PR効果の向上や、運転中の視認性などを踏まえた適正な情報提供のあり方を検討し、効果的に観光情報を提供することで集客力を高めることができ、高次都市施設及び駅周辺の賑わいの創出や地域の活性化が図られることが期待できる。																

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況					
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		<p>新たな都市拠点の創造を図るための商業・業務地としての基盤整備が図られた。 新幹線新駅がもたらす発生集中交通を踏まえた道路網が形成されておらず、新駅開業に併せたアクセス道路並びに関連道路の整備が進められた。 これまで、市内の観光資源を積極的にPRしていなかったが、観光案内所等を設けることにより観光資源の積極的なPRが可能となった。 市内の観光資源は点在しており、広域的な観光ルートが設定されていなかったが、桜の回廊の整備やきじひき高原の整備を進めることにより、市内の観光資源を活用した広域的な観光ルートの設定が可能となった。</p>			
II 定量的指標の達成状況	指標①（民間商業・業務面積）	最終目標値	6000㎡	目標値と実績値に差が出た要因	本事業において、商業用地として基盤整備は完了したが、目標値を超えるまでには至っていない。しかし、ホテルの進出が決定し、現在建設中であることから、1年以内に目標を達成できる見込みである。
		最終実績値	3000㎡		
	指標②（地域住民の交通利便性への満足度）	最終目標値	26%	目標値と実績値に差が出た要因	事前事後に実施した地域住民の交通利便性への満足度についてのアンケートの結果は、本事業の実施により歩行者の安全性の確保と交通アクセスの向上が図られたことから目標値を大きく上回った。
		最終実績値	43%		
	指標③（土地区画整理区域内の下水道普及率）	最終目標値	100%	目標値と実績値に差が出た要因	土地区画整理区域内の雨水污水整備が計画通りに図られたことから、目標を達成した。
		最終実績値	100%		
	指標④（土地区画整理区域に占める公園と緑化調整池の面積割合）	最終目標値	8%	目標値と実績値に差が出た要因	土地区画整理区域内の公園が計画通りに図られたことから、目標を達成した。
		最終実績値	8%		
	指標⑤（匠の森ときじひき高原キャンプ場の年間利用者）	最終目標値	12800人	目標値と実績値に差が出た要因	事業を実施したことで、円滑な誘導が可能となり、観光客数増加の一因となったと考えられる。指標である匠の森ときじひき高原キャンプ場の年間利用者は13716人であるが、他事業で屋内展望施設やメロディーロードの整備も実施しており、それらも含めときじひき高原全体の観光客数は約8万3千人となっている。
		最終実績値	13716人		
	指標⑥（桜の回廊のイベント期間の鑑賞客数）	最終目標値	16500人	目標値と実績値に差が出た要因	点在する市内の桜の名所間に桜の植樹を行なうとともに、主要な場所に照明器具設置をし、夜桜鑑賞を可能としたことで、鑑賞客数が増加したと考えられる。
		最終実績値	93100人		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)		なし			
3. 特記事項（今後の方針等）					
<p>新幹線開業は、交通利便性を高め、交流人口の増加させる効果が期待できる。人口急減・超高齢化社会に対応しつつ、「北斗市らしさ」を活かした自律的かつ持続的な地域社会を創生するため、総合戦略の策定を進めているところである。新幹線開業効果を最大限に発揮するため、総合戦略を踏まえ、次期計画を検討していきたい。</p>					

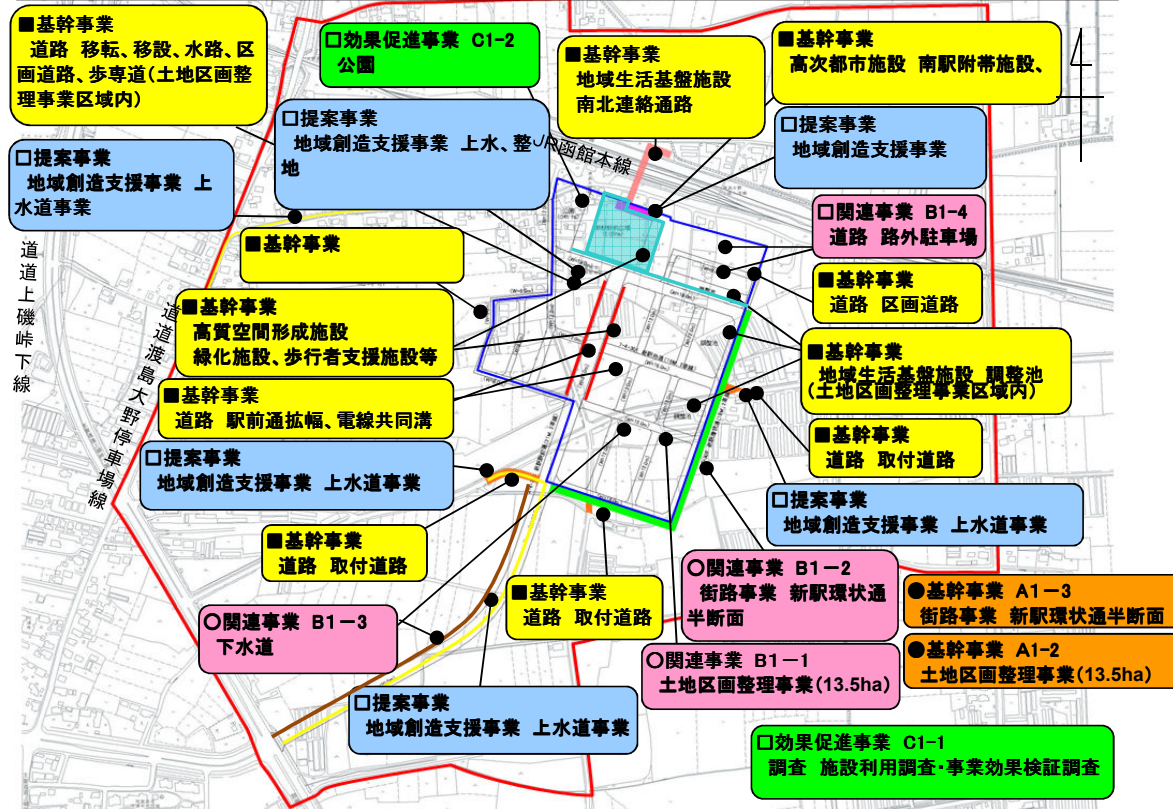
(参考様式3) 市街地整備

計画の名称	北斗市新幹線新駅周辺まちづくり計画		交付対象	北海道北斗市
計画の期間	平成23年度 ~ 平成27年度 (5年間)			

【観光振興に係る事業】



【市街地整備に関わる事業】



凡例

	都市再生整備基幹事業(基幹事業A1-1)
	都市再生整備提案事業(基幹事業A1-1)
	基幹事業(A1-2、3)
	関連事業(B1-1~5、B2-1,2)
	効果促進事業(C1-1~2、C2-1~3)